

# 菖蒲花見の宴

## 志太中第三回同期会

梅雨に入りましたが、会員の皆様にはお健やかに過ごしの御事と、お喜び申し上げます。

本年度の会は、先般御案内申し上げました通り、去る六月一日行われまして、その日の午後二時、同窓会館に集まり、会員の皆様からカンパを集めました二十四万八千円を求めました故小林正己画伯の日本画、岡本君が御苦心されて集めたこの小林君の遺作「アルパ」が、鈴木海音先生からの達筆の書、一幅、志登呂焼第十四世故藤春彦家からの名陶器茶湯二点（この中一点は、海音先生に贈呈致します）を感慨無量の感に打たれて見せて頂き、その後、校舎・校庭を散策、私達の植えた松も立派に育って、亭々たりですね!! 又、近代のトレーニング機器の備えられた室などに驚嘆しながら、東高をあとに、田毎に向かいました。丁度、季節の菖蒲が美しく咲く庭先で記念撮影、その後、懇親会に移りました。恩師山田大五郎・桑原謙・小宮山宏の三先生方がお元気に御臨席下さいまして、本当にありがとうございました。



同窓会会長、六回生の伊村隆恵氏と事務局の海野道夫先生（志太中第十九回卒）をはじめ、先輩として二回生代表の村松秋雄さんも参加して下さいました。これは去る四月十三日、志太中第一回生・第二回生合同同期会が催された折、第三回生として松永と平松がお誘いを受けたことへの御返礼の意味から、第一回生代表の宮崎作次郎、第二回生代表の村松秋雄の両先生に御案内申し上げましたところ、宮崎さんは所用の為残念ながら欠席の旨御連絡がありました。第二回生の村松氏は、御多用中を御出席賜りまして感激致しました。この模様は四月十四日、静岡新聞の朝刊に出ておりました。

同期会のニュースとしては、悲しいニュースが一つあります。岡部町村良の村本実君が十五年余りの闘病の末、昨年十月下旬亡くられました。今回の出欠アンケートで奥様から知る事が出来ました。本当に残念でした。心からお悔み申し上げます。早速、岡本正明・中野孝一両君が弔問して下さいまして、三回生一同の名で御香典をお供えしました。御遺族は皆様お元気の由ホッと致しております。嬉しいニュースも一つあります。多々良鎮男君が、春の叙勲で、勲三等旭日中綬賞の栄に浴せられました。おめでとございます。早速、三回生一同の名で、祝電を打ちました。この御礼状も頂きました。

# 志太中第九回生

## 同期会

昭和十二年三月二日、我々志太中九回生は、今は図書館となつて居る当時の講堂で卒業式を行い、母校を去って早や四十八年となる。戦前は郷里に住む者少なく、県外各地に或いは遠く満州に就職、又数多くの同級生は応召し殆ど一同に顔を合わす機会は無かつた。戦後、平和の訪れと共にお互いの消息が判り、同期会を開催し出してから本年度で三十七回目を数えたり、静岡、焼津、藤枝南部（旧青島・高洲・大井川町）、藤枝北部、島田の五地区で持廻り開催



住所不明三名で、現在五十四名の同級生は連絡がとれて居る。今回の同期会では、去る五月県体育協会より体育功労章を受賞した後藤美喜保君から受賞のあいさつが深い、一段と花を添えたことには意義深いものであつた。毎年三十人前後の同級生が一堂に会し、昔の志太中生に戻り、飲み、唄い、さわいで、たそがれ行く老春を謳歌しているが、過ぎし志太中時代が懐かしく感じられる。来る本年は島田地区の当番で、再会を楽しみにしている。

附記 当日の同期会で司会の役をつとめた塚本一郎君が、七月十六日脳血栓により突然急逝。七月十八日宗乗寺に於て葬儀が行われ、同級生多数が参列し冥福を祈りました。

# 「志十会」

## 千南原散策

志太中を卒業以来五十路を過ぎた今日、昭和六十一年四月二十六日、志十会二十名の内十六名が正門に立ち感慨無量の思い出に浸る人生六十五年の内なる程僅僅は生きて来たんだ。此処に母校志太中があり、私の様に毎日曜日に来ている、旧友と此の場所であうと思いが感傷的になるようだ。卒業以来初めて訪れる遠来の人もあり、在校中のそれぞれの姿が個々の像を追って眼前に浮かび寄ってくる。褒められたことより叱られたことの方が脳裡に刻まれるもので、誰と誰、彼と彼、全同級生の思い出が学校訪問によって又新しく思い出された。

今日二十八回卒業で当東高におられる野本先生が来られ、同窓生の同期会には同窓会本部より清酒を下さるとのこと、思いも掛けず頂戴をする。又校内の現況等の説明を頂いた。昔の奉安殿の前に来た時、騒いで叱られたことなど思い出し、一同思い出に浸った。当時を偲ばせてくれる講堂に見入っていると、現在図書館として使われている講堂は、防災上危険であるから建て直すべきだという県の指示が出ているとの話があった。尚良く講堂を見直す。いずれ我々も生涯を閉じる時が来る。遺る方ないない。旧講堂が惜しまれない。

木、昔は細い松の木だったと誰もが一様に思ったことである。閑兵台（朝礼台）のコンクリートは今はないが、少し前方西側の角に当時の控室が佇んでいる。朝礼の場であり、先生方より下達の処であり、雨天体操場でもあった。良くお世話になつた建物である。現在何に使われているだろうか。現に見ると、卓球部の練習場になって見えた。危険のない木造平屋建、屋根はトタンだと思ふが（昔はスレート）講堂と同じ運命にはならないと思う。いよいよ校内散策も裏門に来て終り、一同蓮華寺池に向かう。当時崩してグラウンドに運んだ採土場の赤肌は見られないが、公園として整備されつつある池畔を歩くと、当時ここを走らされた思い出がまた甦ってくる。

校長の宇波先生の発見になる鬼蓮は普通の蓮に淘汰されたのか無くなつていた。何年過ぎようと昔のままの池の面である。カメラマンは朝比奈君、被写体は昔日の少年の面影を残した老人の集団である。中には歩くに大変だとか待っているから廻つて来てくれと言ふ人もあれば、山を越えて歩いて会場に行こうと云う健康組もあり、様々な状態が浮き彫りにされた現況だった。

議事も終り歌詞のコピーを分け校歌を唱い、応援歌第一・第二を久々に大声を出して歌って当時の思いに耽る。意気の高揚をして一日を過ごした。母校訪問、校歌斉唱等により若さが我々の頬に蘇ることとした。

# 志太中第十五回卒

## 還暦同期会

人生の意義を再確認した本年の同期会だった。入学者九十五名、物故者三十九名、中退一名、転校一名、現在五十四名

（本日の参加者）  
青木と士文、岩本四郎、朝比奈敏雄、小本茂、村松利彦、桑原武夫、金原憲治、西村馨、原田武夫、藤崎修司、石切山敬、河合信夫、清水栄一、有光駿一、大塚麻雄、加村文雄、都築克郎、戸塚進、河原崎勇（幹事 山本直平）



昭和六十年七月二十八日、先ず午後一時半より富洞院にて物故者の慰霊祭をとり行いました。涼しい本堂にて、追悼の辞を鈴木一夫君（同期代表）、山田良一先生（恩師代表）お二人が述べられた後、一同読経・焼香してしめやかに終了しました。特にお二人の追悼の辞は、しみじみと往時を懐懐なさつて胸を刺すものがありました。稲葉大和尚の読み上げる十六名の名前を聞きながら、鬼籍に入られた時期はそれぞれ違うのに、思い出される顔は、なぜか皆志太中時代の童顔でした。（なお、曾根幸之君の死亡が判明し、物故者は十六名となります）



ました。いづくにも中学時代の面影は殆ど残っていない感じが、それでもあの頃の状況を思い浮かべながらのなつかしい小旅行でした。

第二会場の小杉苑に到着、記念写真撮影後、午後四時すぎより懇親会を開始、開会のことは、出席状況等の報告を伊井がこい、出席を挨拶を發起人代表で鈴木一夫君、伊村同窓会長、恩師代表山田良一先生にそれぞれお願いし、乾杯は高橋清一君の音頭で、後はにぎやかに懇親の会となりました。

最後に千南原時代に帰る皆で肩を組み、山中のリードで校歌、応援歌第一・第二を斉唱、次回は約して解散となりました。次回は一〜二年後に焼津地区で、高橋清一幹事長のもとに開かれることになりました。なお、今回も通信事務やら何やらごまましたこと、赤堀幹事が献身的にやして下さいました。厚く感謝いたします。

（小宮山宏、山田良一、藤井誠の三先生、伊村同窓会長、海野同窓会事務局長、以下同級生三十九名でした。）

（伊井 敏）